

暑い夏、ウサギやチャボは、涼しい日陰におきましょう。特にウサギがよだれを出してぐったりしていたら熱射病で、すぐに死ぬかもしれません。

動物の健康への配慮を行うことで、子どもたちは命の大切さに気付いてくれることでしょう。暑さ、寒さの変化への対応を子どもたちに伝えられたら、将来の子育ての基礎をつくることができるかもしれません。

暑さ・風雨への工夫

- 飼育舎が落葉樹の木陰にあると夏は涼しくて、冬は日当たりが良く安心です。
- 雨が振り込む場合、ブロックなどの上に木製の巣箱を置いて、動物の避難場所を作りましょう。
- 日陰を作っても飼育舎が暑い場合、一時ケージなどに動物をいれて涼しい場所に移動しましょう。気温が高くなくても、湿度が高いときは気をつけましょう。

暑さの指標	ウサギ：耳を小刻みにゆらし、鼻をぴくぴくさせてと呼吸する。 腹を床につけて手足を伸ばしている。 よだれで顎がぬれている。 チャボ：両羽を広げて、口をあけて呼吸する。 モルモット：ウサギに順ずるが、最初に落ち着きがなくなる。
-------	---

飲み水

- ウサギもチャボも人も、生きるためには水が必要です。
特にウサギは夏、また授乳中の場合、大量の水を必要とします。
いつも新鮮な水を、こぼれないような底が広い金属や陶器の容器にいれておきましょう。
なお、容器の内側にコケやばい菌が生えないように、毎日こすってあらってください。

栄養

- 体力を落とさないように、休日にも新鮮な水と餌を与えましょう。
「命には休みがない」と、子どもに伝えるために、保護者等の支援を受けましょう。
親子の良い会話につながっていると実践校の校長先生は言っておられます。
学校開放を活用して、行事に集まる親子等が担当する学校もあります。

特に文鳥やセキセイインコなどの小鳥は、一日絶食すると約半数が死亡し、一日半絶食するとすべて死亡する可能性が高いため、餌の殻を取り除いて餌の有無に注意しましょう。

衛生上の問題を回避して、有意義な飼育活動を持つために

社団法人東京都獣医師会

飼育の原則：交流できる飼育

きれいな動物を、綺麗に飼って、常識的な接触をする

～病気のない動物を、良く掃除をしている所で飼い、口にくわえたりしないで飼う～

- 掃除が直ぐに終わって、たっぷりふれあえる楽しい飼育《愛着を培う》
- 動物の健康に注意して、触る時、動物に汚れを付けないように自分の手に注意して、触って遊んだ後にも手洗を洗う
- 特に、水の中で生活する動物を口に入れたり、その水を飲まないこと

基本的な注意

動物の選定

病気のない世話のより簡単な種類を選ぶ。齧歯類は獣医師を通じて実験動物を入手。野生動物と輸入動物を飼わない。衛生上と馴化と法的な問題がある。愛情の交流ができるチャボとウサギ、モルモット、ゴールデンハムスター等がおすすめ。

飼育の場所

子どものより身近で飼うと、より影響が大きい。

飼育する数

数を決めて増やさない。3クラスある学年なら3匹に止めても十分効果はある。頭数が多いと、糞尿が多くなり掃除が大変で、不潔になる。

飼育舎に入れる前

健康チェックと必要な処置の後、2週間別飼いして健康を確かめてから飼育舎に。新しい動物をケージ飼いのまま飼育舎に入れ、先住動物と網越しに生活させて、お互いに気にしなくなったら一緒にさせる。

子どもへの触れ合わせかた

獣医師から手ほどきを受ける。子どもに、動物の気持ちを代弁するように話かける。動物が安心する抱き方で、子どもに抱かせると、動物に関心と愛情が湧いてくる。

日常の管理

自分で掃除することも、餌をとることもできない動物の気持ちを考えさせて

毎日飼育舎掃除

居室が広すぎると掃除が大変。なるべくコンクリートの床にして、巣箱を入れる。学校の実情・事情の中でも、獣医師の助言で少しでも工夫を！

動物の体力維持

朝夕2度、糞尿、食べ残しを掃除して餌と水を与える。人は日に3度食べていることを子どもに話して、思いやりと栄養摂取の大切さを伝える。

学校全体で気を配る

命は繊細で、条件が合わないと直ぐに死んでしまうこと、死ぬことは大変なことだと子どもに伝えるために、子どもに愛着を持たせ、学校全体で飼育を支える。死ぬに任せない。

防寒、避暑を考える

健康を守るためには、暑さ寒さに気をつけることを伝える。夏は木陰に避暑させて、新鮮な水を切らさないこと。冬は木製、あるいはダンボール箱をいれて防寒させる。

保護者と一緒に休日の世話

「命に休みはない」と子どもに伝えるために、休みは保護者と子どもの親子当番で担当してもらう。親は、子どもの苦労が分かるし、良い親子の会話ができた などの感想を持つ。